

①三鷹駅

JR中央線が開通したのは明治22(1889)年、当時は甲武鉄道とよばれていた。三鷹駅は40年後の昭和5(1930)年に開設されたが、初めは南口のみで、北口の開設は昭和16(1941)年。昭和24(1949)年には戦後の社会不安の時代、「三鷹事件」がこの駅で起こっている。昭和42(1967)年の中央線特別快速停車に続いて、翌年4月から総武線、営団地下鉄東西線が乗り入れるようになった。昭和44(1969)年には三鷹橋上駅がオープン。南口と北口を結ぶ連絡通路も開通し、現在の形になった。

②独歩の碑

三鷹駅北口には「山林に自由存」という「独歩吟」の一節が武者小路実篤の書で刻まれた碑が建つ。国木田独歩の二男で彫刻家の佐土善二制作による独歩の上半身レリーフはほめこまれている。独歩の『武蔵野』に登場する桜橋や小井井堤は玉川上水のもっと上流。

③三鷹市美術ギャラリー

平成5(1993)年10月、三鷹駅南口のコラル5階に開館。勤め帰りにご利用しやすい午後8時まで開館している。近現代美術を主とした企画展示を開催するとともに、市民の美術作品発表の場となっている。
⇒美術ギャラリー☎79 0033

④iカフェ

平成12(2000)年4月にオープンした三鷹産業プラザ。その1階に、常時インターネット接続されたパソコンを配置したインターネットカフェ「iカフェ」がある。ビジネスの打ち合わせや待ち合わせはもちろん、フロアを貸し切った展示会・ミニ講習会などの企画にも利用できる。(要予約)
⇒駒まちづくり三鷹☎40 9669

⑤赤とんぼの碑・文学モニュメント

三鷹ゆかりの文学者は数多く、三鷹駅から練中中央通りには多くの碑が建っている。三木露風にちなむ赤とんぼの碑は昭和52(1977)年に商店街の入口に建てられたもの。平成5(1993)年にこの碑の改修とともに、新たに名誉市民の山本有三・武者小路実篤、太宰治と亀井勝一郎の親交をテーマにした3つの碑を建立した。

⑥ 太宰の仕事場

太宰治は昭和14(1939)年から、終戦前夜の疎開を除き、昭和23(1948)年6月に玉川上水に入水するまでを三鷹で過ごした。昭和22年7月から4番目の仕事場・旧千草(現ルベ荘)へ。よく通った飲み屋の2階を仕事場として旧中鉢家の2階を借りた。商社に勤める女性も借りた部屋を妻性が出勤している間、午後3時ごろまでという約束で借りたものだった。「メリイクスマス」、「ヴィヨンの妻」を執筆、建物は解体されたが、この部屋の部材の一部は市で保存されている。昭和22年4月から2番目の仕事場・旧田辺肉店産

⑦ポケットスペース・玉鹿石

玉川上水沿いの「風の散歩道」にあるポケットスペースには、作家・太宰治が玉川上水について綴った一節を刻んだレリーフが設置されている。「四月なけば、ごころの事である。頭を挙げて見ると、玉川上水は深くゆるゆると流れて、兩岸の桜は、もう葉桜になっていて真青に茂り合い、青い枝葉が両側から覆いかぶさり、青葉のトンネルのようである。「乞食学校」より)。

太宰が玉川上水に入水した場所は今でもはっきりとしない。しかし「最後の場所を知りたい」というファンの要望にこたえ、雁物がそろえて置かれていたとされる上水ほとりの大ケヤキの向かい側、「風の散歩道」の歩道上に、太宰の生まれ故郷・青森県金木町から取り寄せた特産の玉鹿石(ぎょよかせき)が置かれている。「石に語りさせるのではなく、見る人の想像に任せたい」と石には何も刻まず、無銘碑となっている。

⑧むらさき橋

むらさき橋是三鷹市と武蔵野市を結ぶ橋として、両市を結ぶ交通の利便性向上を目的に両市が協力して建設し、昭和30(1955)年に完成した。橋名は両市民から公募により、両市が広々とした武蔵野原野にあった時に一面に咲き誇っていた「むらさきま」の名にちなみ命名される。橋をそのまま残しその外側に新しく橋台を設けて橋を乗せるという工法により、平成9(1997)年に架け替えられた。

⑨品川用水

さくら通りには、かつて玉川上水の分水の一つ「品川用水」が流れていた。このあたり下連雀は、明暦の大火などの後に神田連雀町から集団移住させられた江戸町民が開いた村。品川用水の水を使って畑作を行っていた。東西65%、南北720%の短冊形の地割りの農家が、連雀通りに沿って南北に並び、「橋場」と呼ばれた南浦交差点が村の中心だった。用水路は戦後、昭和26(1951)年からの失業対策土木事業で暗渠化され、さくら通りは幅9%の市内初のアスファルト舗装道路となった。

⑩ 玉川上水

江戸の上水として造られた玉川上水は、承応2(1653)年に、多摩川中流の羽村の堰から四谷大木戸まで43%が開削された。江戸町民の上水として計画されたものだが、後には武蔵野台地に分水路が引かれ、飲み水や灌漑用水、水車の動力などに利用されて、新田開発に大きな役割を果たした。明治初期には、物資輸送のための通船も行われた。

⑪ 櫻橋・庚申塔

櫻橋是三鷹駅の西側、三鷹市域では玉川上水にかかる最も上流の橋である。道路が拡幅される前の橋の位置はわからぬ。昔、ここに大木の櫻があったとか、櫻の橋を架けたなどの話が伝わる。橋のそばにある「観世音堂」も拡幅で今の場所に移動されたが、当初の位置は、上連雀の鬼門にあたるということで堂がつくられたようだ。堂内には、市指定文化財の庚申塔がある。享保14(1729)年建立。

⑫ 陸橋(三鷹電車庫跨線橋)

三鷹電車庫の開設とともにとなって昭和4(1929)年に造られた。電車庫の引込線と中央線線路をまたぐ全長90%の鉄骨の橋。日本最初の直径15cmの電気大時計も設置された話題になった。太宰治は、「いい所がある」と言っては、弟子を連れてここに来ていた。写真家・田村茂が撮影した二重まわり姿で遠い空をじっとみつめる橋上で太宰の写真はよく知られている。

⑬ 堀合遊歩道

堀合遊歩道は、昭和26(1951)年に中島飛行機武蔵製作所跡地に開設された「武蔵野競技場」(野球場)に通じていた三鷹駅からの電車・通称グリーンパーク線の線路跡。この球場は国鉄スワローズの本拠地だったが、プロ野球開幕は実質1シーズンで打ち切りとなり、閉鎖されてしまった。玉川上水北側も遊歩道になっている。

⑭ 禅林寺・太宰治の墓

森岡外を尊敬してやまなかつた太宰治は、禅林寺にある囀外の墓について、「花吹雪」

⑮ 中近東文化センター

三笠宮崇仁親王殿下のご遺意のもと、故出光佐三氏の協力で出光美術館収蔵のオリジナル美術品を移して昭和54(1979)年開館。古代エジプトやメソポタミア文明などの土器・金属器・ガラス器・陶器・布・装身具・写本などが一般公開されている。
⇒同センター☎32 7111

⑯ 龍源寺・近藤勇の墓

龍源寺門前には、六地蔵・庚申塔などと並んで、新撰組として知られる近藤勇の胸像がある。勇の墓石は本堂のうしろ墓地入口近くにあり、訪れる人が多い。



⑰ 御鷹場の碑

徳川家康をはじめ代々の江戸幕府の将軍は、鷹をつかって野鳥や兎などを獲る「鷹狩」を行ひ、井の頭周辺にもたびたび来ている。現在、市役所南側の雑木林内、大沢の長久寺境内、野崎の吉野家門前にも各1本ずつがある「移設されたもので、原位置は定かたらない」。

⑱ 井の頭伝説・宇賀神像塔

日本神道古来の水神・宇賀神は弁財天と同じく信仰された。明和4(1767)年に寄進された宇賀神像(大盛寺門前)は上部に人間の顔をつけた蛇がとぐるを願っている。こんな伝説がある。弁天様に願をかけて玉のような女の子を授けた夫婦が、美しく成長した娘を連れて弁財天にお参りに行くとき、娘は池に飛び込み、みるみる白蛇に変わってしまった。夫婦はせめてもの供養として宇賀神像を作ったという。

⑳ 井の頭弁財天

井の頭池、中の島にある弁財天社は、縁起によると天暦年間(938-946)に源経基により創建された。現在の社殿は昭和2(1927)年に再建されたもの。神田上水源の水神・音楽や芸能の守護神としての弁財天は江戸町人に信仰されており、周囲の水鏡、石橋などには奉納した江戸商人の名が刻まれている。大盛寺門前の石灯籠は「紫灯籠」と呼ばれ、井の頭池の水を利用した「江戸薬」の染物で生計を立てた人々が寄進したもので、江戸百薬「名所雪月花」「名所江戸百薬」などに描かれ、行業にも人気の景勝地であることがうかがえる。

㉑ 道しるべ・黒門

弁財天への参道入口に、「神田御上水源・井の頭弁財天」は「是よりすべで一丁半」と刻まれた高さ2.4%の道しるべの標石がある。延享2(1745)年建立。白石には、芸能の守護神・弁財天を信仰した当時の江戸の劇場名や俳優の名が刻まれている。標石のとなりには「黒門」と呼ばれる鳥居に似た黒塗りの木の門があるが現在のものは、大正13(1924)年に再建されたもの。江戸から大正時代、この参道は大いに賑わっていたといわれている。

㉒ 神明神社・高橋家

天文6(1537)年、小田原北条氏の家臣・高橋桐高が上杉家の深大寺城に対抗して牟礼の丘に陣し、境内鎮護のため芝飯倉神明宮を奉たのが始まりという。祭神は天照大神。橋高6%、市内でも高い位置する。桐高の子・康種は小田原城落城後、牟礼に帰農。その子孫は江戸時代には代々家主を勤めた。

㉓ 巳待講燈籠

嘉永3(1850)年建立。井の頭弁財天までの道しるべと村内安全祈願を兼ねた石燈籠(市指定)。竜の浮き彫りなどの意匠が見事。もとは人見街道沿いにあったが、昭和44(1969)年、神明神社境内に移転された。

㉔ 真福寺

高橋康種は牟礼に定住した天正19(1573)年、日蓮宗の寺・真福寺を開き、高橋家の菩提寺とした。明治初期には、後に東三鷹尋常高等小学校の初代校長を勤めた高橋亭之助がここで1年あまり村童の教師にあたった。寺の本堂脇に百日咳、安産などに効験のあった釈宮氏という尼の信堂像を奉る香願堂がある。

(昭和19年発表)に「この墓所は清潔で、囀外の文章の片影がある。私の汚い骨も、こんな小奇麗な墓所の片隅に埋められたら、死後の救いがあるかもしれない」と書いている。その意を汲んで、美智子夫人が太宰をこの寺の囀外の墓の側に葬った。毎年6月19日の桜桃忌には、墓から多くの太宰文学愛好者がここに集まって来る。6月19日は太宰の遺体が発見された日でもあり、誕生日でもある。

㉕ 禅林寺・森林太郎(鷗外)の墓

禅林寺の山門わきに森岡外の子孫碑があり、「余ハ八見人森林太郎トシテ死セント欲ス(中略)墓ハ森林太郎墓ノ外一字モホルカラス」とのみ彫られた鷗外の墓は、昭和2(1927)年に向島の弘福寺からこの寺に移されたもの。それ以降、墓参のために、与野野里子や斉藤茂吉、永井荷風などが三鷹を訪れるようになった。

㉖ 三鷹市芸術文化センター

音響性能を重視したシューボックス型の「風のホール(625席)」演劇や古典芸能などに適した「星のホール」(250席)、可動壁により5室に分割可能な美術展示・創作室、音楽練習室などがある芸術文化活動の拠点。三鷹市芸術文化振興財団によって音楽・演劇・美術などの多彩な企画事業も開催されている。
⇒三鷹市芸術文化振興財団☎47 5122

㉗ 御鷹場の碑

徳川家康をはじめ代々の江戸幕府の将軍は、鷹をつかって野鳥や兎などを獲る「鷹狩」を行ひ、井の頭周辺にもたびたび来ている。現在、市役所南側の雑木林内、大沢の長久寺境内、野崎の吉野家門前にも各1本ずつがある「移設されたもので、原位置は定かたらない」。

㉘ 大盛寺

創建年代不詳。井の頭弁財天の守護寺。境内には明治時代の歌舞伎俳優・板東重知六の句碑、国木田独歩、柳田国男など武蔵野を研究した学者たちの顕彰の碑のほか、江戸町人が奉納した石碑で最も古いといわれる享保5(1720)年建立の石灯籠などもある。

野川エリア

①水車・しんぐるま

峯岸家の水車の創設は、文化5(1808)年ごろ。大正8(1919)年に大改修されている。水輪の直径約4.7%、幅約1%の胸掛け式の製粉用大形水車である。昭和43(1968)年に野川の改修によって引水できなくなり、160年ほどの水力稼働は停止した。精密な歯車や杵構造などがそのまま保存され、母屋や土蔵などとともに東京都有形民俗文化財に指定されている。
⇒(見学は要予約)駒まちづくり三鷹☎40 9669

②野川公園

野川公園は、国際基督教大学のゴルフ場を買収・整備し、昭和55(1980)年に開園。広々とした芝生が、かつてのコースに沿って豊富な樹々が連なる。野川の北側には自然観察園があり、多くの野鳥・野草、水辺の昆虫などを観察できる。

③大沢・ほたるの里

「ほけ」と呼ばれる園分寺崖線からは多くの湧水が流れ出し野川に注ぎ込んでいる。市民グループが環境保護活動を行っている大沢の「ほたるの里」帯には、湧水による湿性花園、田んぼ、わさび田などが広がり、年間を通してレンゲ祭り・田植祭・ホタル祭り・福刈り・収穫祭などが開催されている。
⇒駒まちづくり三鷹☎40 9669

④出山横穴墓群保存施設

平成5(1993)年に発掘調査された「出山横穴墓群8号墓」を現地保存し、常時公開している遺跡見学施設。7世紀ごろの築

造とされる。施設に入ると照明が自動点灯し、人骨レプリカを使って発見時を再現した内部が見え、音声による解説が聞ける。

⑤国立天文台

日本の天文学研究の中心。現在地に転移して来たのは大正13(1924)年。長い間、「東京天文台」の名称で親しまれてきたが、昭和63(1988)年、「国立天文台」と改められた。平成12(2000)年7月から、第一赤道儀室・アインシュタイン塔・大赤道儀室など歴史的建造物を中心としたエリアが常時一般公開され、より身近な施設として親しまれている。
⇒国立天文台☎34 3688

⑥I C U・湯浅八郎記念館

昭和24(1949)年創立。キャンパスには武蔵野の雑木林がそのまま残る。湯浅八郎記念館は昭和57(1982)年開館。初代学長の湯浅博士収集の陶器や染織などの民芸品と同大学構内などから出土した考古学資料を中心に展示。
⇒同館☎33 3340

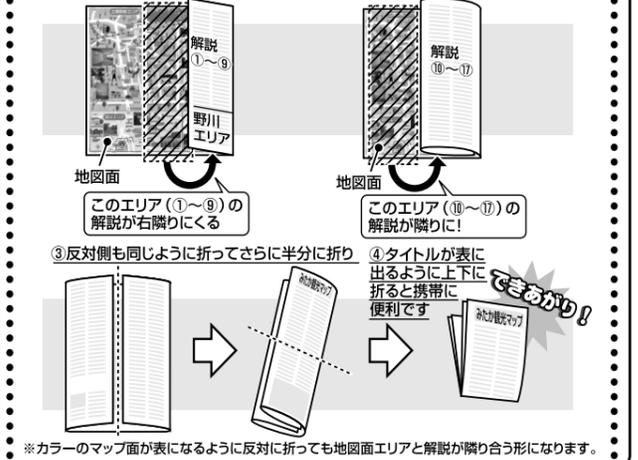
⑦中近東文化センター

三笠宮崇仁親王殿下のご遺意のもと、故出光佐三氏の協力で出光美術館収蔵のオリジナル美術品を移して昭和54(1979)年開館。古代エジプトやメソポタミア文明などの土器・金属器・ガラス器・陶器・布・装身具・写本などが一般公開されている。
⇒同センター☎32 7111

⑧龍源寺・近藤勇の墓

龍源寺門前には、六地蔵・庚申塔などと並んで、新撰組として知られる近藤勇の胸像がある。勇の墓石は本堂のうしろ墓地入口近くにあり、訪れる人が多い。

●みたか観光マップはこう折ると便利●



編集・発行 三鷹市企画広報課
〒181-8555 三鷹市野崎1-1-1
☎0422-45-1151 内線2133
kouhou@city.mitaka.tokyo.jp

① 井の頭恩賜公園

市民のオアシス・井の頭公園は、皇室の御料地となっていた御殿山や井の頭池周辺が大正2(1913)年東京市に下賜され、大正6(1917)年、日本初の郊外公園として一般公開された。

高木のみで約1000本の樹木があり、雑木林は昔の武蔵野の面影を残す。グリーンアドベンチャーコースも設けられている井の頭池の周囲は、春には桜が見事でお花見の名所。池ではボートも楽しめる。水鳥の種類も豊富。野外ステージ、陸上競技場、テニスコート、プールもある。

② 井の頭池と神田上水

水神確保のためつくられた日本初の水道・神田上水の水源地であった。池東端には上水取水口の石門が残る。西端の石井間は「お茶の水」と呼ばれ、家康がこの水を江戸城のお茶の水に用いるよう命じたといわれている。三代将軍家光もこの池の水を好み、近くの辛夷の樹に小瓶で「井之頭」と彫つたため、これが池の名となったとも伝えられる。「七井の池」と呼ばれたほど豊富だった湧水は昭和の中頃に枯れ、現在は深井戸の水を給水して景観を保っている。

池を取り囲むように旧石器時代の大規模な遺跡群もみられる。最初に発掘されたのは昭和37年、縄文時代中期の住居跡で、発掘記念石碑が建てられている。

③ 井の頭弁財天

井の頭池、中の島にある弁財天社は、縁起によると天暦年間(938-946)に源経基により創建された。現在の社殿は昭和2(1927)年に再建されたもの。神田上水源の水神・音楽や芸能の守護神としての弁財天は江戸町人に信仰されており、周囲の水鏡、石橋などには奉納した江戸商人の名が刻まれている。大盛寺門前の石灯籠は「紫灯籠」と呼ばれ、井の頭池の水を利用した「江戸薬」の染物で生計を立てた人々が寄進したもので、江戸百薬「名所雪月花」「名所江戸百薬」などに描かれ、行業にも人気の景勝地であることがうかがえる。

④ 井の頭伝説・宇賀神像塔

日本神道古来の水神・宇賀神は弁財天と同じく信仰された。明和4(1767)年に寄進された宇賀神像(大盛寺門前)は上部に人間の顔をつけた蛇がとぐるを願っている。こんな伝説がある。弁天様に願をかけて玉のような女の子を授けた夫婦が、美しく成長した娘を連れて弁財天にお参りに行くとき、娘は池に飛び込み、みるみる白蛇に変わってしまった。夫婦はせめてもの供養として宇賀神像を作ったという。

⑤ 大盛寺

創建年代不詳。井の頭弁財天の守護寺。境内には明治時代の歌舞伎俳優・板東重知六の句碑、国木田独歩、柳田国男など武蔵野を研究した学者たちの顕彰の碑のほか、江戸町人が奉納した石碑で最も古いといわれる享保5(1720)年建立の石灯籠などもある。

⑥ 道しるべ・黒門

弁財天への参道入口に、「神田御上水源・井の頭弁財天」は「是よりすべで一丁半」と刻まれた高さ2.4%の道しるべの標石がある。延享2(1745)年建立。白石には、芸能の守護神・弁財天を信仰した当時の江戸の劇場名や俳優の名が刻まれている。標石のとなりには「黒門」と呼ばれる鳥居に似た黒塗りの木の門があるが現在のものは、大正13(1924)年に再建されたもの。江戸から大正時代、この参道は大いに賑わっていたといわれている。

⑦ 神明神社・高橋家

天文6(1537)年、小田原北条氏の家臣・高橋桐高が上杉家の深大寺城に対抗して牟礼の丘に陣し、境内鎮護のため芝飯倉神明宮を奉たのが始まりという。祭神は天照大神。橋高6%、市内でも高い位置する。桐高の子・康種は小田原城落城後、牟礼に帰農。その子孫は江戸時代には代々家主を勤めた。

⑧ 巳待講燈籠

嘉永3(1850)年建立。井の頭弁財天までの道しるべと村内安全祈願を兼ねた石燈籠(市指定)。竜の浮き彫りなどの意匠が見事。もとは人見街道沿いにあったが、昭和44(1969)年、神明神社境内に移転された。

⑨ 真福寺

高橋康種は牟礼に定住した天正19(1573)年、日蓮宗の寺・真福寺を開き、高橋家の菩提寺とした。明治初期には、後に東三鷹尋常高等小学校の初代校長を勤めた高橋亭之助がここで1年あまり村童の教師にあたった。寺の本堂脇に百日咳、安産などに効験のあった釈宮氏という尼の信堂像を奉る香願堂がある。

⑩ 牟礼の里公園

市内でもいちばんの高台にあり、富士山の見える南西向きな斜面地。園内は梅林、竹林、栗林があり、コケやふきのとうなども自生する農家の庭先風の自然庭園。都市化のなかで残された農の風景が広がる「牟礼の里」の中心となる公園である。

⑪ 三木露風

「赤とんぼ」の作詞で有名な三木露風は、昭和3(1928)年から39(1964)年に交通事故で没するまで牟礼に住んだ。桑畑や雑木林に囲まれた旧居「遠露荘」の跡には案内板がたっている。露風は亡くなる昭和39(1964)年に地元・高山小の校歌を作詞している。昨年、新校舎がオープンした同校の学校図書館には、直筆の「赤とんぼ」などを展示した「三木露風コーナー」がある。なお、露風の生誕地・兵庫県鹿野市と三鷹市は、平成13(2001)年4月に姉妹都市提携をした。墓所は大盛寺墓地内。入口の「赤とんぼ」の看板が目印。

⑫ 風の散歩道

三鷹駅から万助橋までの玉川上水に沿った800%の道で、緑と水の公園都市・三鷹のシンボルである。名称は1000点を超える公募作品から選ばれた。御影石で舗装された歩道にしゃれたベンチ、ポケットパークやモニュメントの設置と、散歩するに楽しめるようになっている。さらに足踏のタイルや三鷹の森ジブリ美術館の案内板など、遊び心もいっぱい。揃いの照明灯・車止め・玉川上水の水鏡をライトアップする装置により、夜景も美しい。沿道は昭和の初期に開かれた住宅街で見どころも多い。

⑬ 万助橋・松本訓導碑

万助橋は安政年間(1845-60)までさかのぼれる市内で最も古い橋の一つで、初代はマツの木を3本並べたものだった。現在のものは日本古来の「はね高橋」の橋に、橋高60%、市内でも高い位置する。桐高の子・康種は小田原城落城後、牟礼に帰農。その子孫は江戸時代には代々家主を勤めた。

⑭ 三鷹の森ジブリ美術館

21世紀の森で共にオープン(平成13年10月1日)した美術館。三鷹市と徳間書店、スタジオジブリ、日本テレビの共同事業として実現した。スタジオジブリの作品を中心にアニメーションについて幅広く展示している。「建物と、それ自体が一本の映画としてつくりたい」という考えのもとに宮崎駿監督がデザインした。館内には不思議で面白いところがいっぱい。ここでしか見られないオリジナル作品の上映もある。完全予約制なので事前に入場引換券を購入することが必要だが、入館しなくても屋上のロケットを見上げたり、カラフルな外観を眺めるだけでも楽しい。

入館方法 週末の企画のコンビニエンスストア「ローソン」の端末で、入場引換券を販売しています。料金は大人1000円、中学生700円、小学生400円、幼児(4歳以上)100円(受付できずき入場券と引き換え)。開館時間 午前10時～午後6時(入場は10・12・14・16時の4回、完全予約制ですが入替制ではありません)。⇒三鷹の森ジブリ美術館☎5070 055777

⑮ Poki ショップ

三鷹の森ジブリ美術館の館内にちなんだ宮崎駿監督がデザインした三鷹のマスケット Poki (ポキ) のお店。キャラクター商品や、新作と菓子「鷹にまんぐう」を販売している。鷹にまんぐうは、鷹の卵を飾ったお菓子で、休憩場所としても使える。美術館から三鷹駅へ帰るコミュニティバスの停留所も兼ねているので、ちょっと一服するのにも便利。

⑯ 井の頭自然文化園(本園・分園)

第二次大戦中の昭和17年(1942)に開園。当初より郊外型の動物園として、自然に近

い環境で小動物を群で放し飼いを自然生態観察に力を入れている。昭和50年代までは園内を開闢するクジャも。現在でも鳥が目の前を横切る「熱帯鳥温室」や、肩や頭に落ちてくる「リスの小径」、モルモットに乗って歩くなどがある。戦後初めて日本に来たゾウの「はな子」も高齢ながら健在。ほかにも長崎の「平和祈念像」が作られたアトリエと北村西望作品の彫刻館、童謡「赤い靴」、「井の頭音頭」の野口雨情の住居を移築した茶会なども開催する童居には水琴窟、かわいいメロイコーンのある遊園地、資料館と見どころは多い。

分園には日本の水鳥がいっぱい。水生博物館では本物のカワセミやカイツブリが目前で魚を捕まえる姿やユサシトミヨの巣作りも見られる。メタセコイヤなどの樹木も注目も。

⑰ 山本有三記念館

作家で三鷹市の名誉市民でもある山本有三が昭和11年(1936)から連荘軍に投収された21年(1946)まで住んだ家。「新編路傍石の石」米百俵などの名作が生れたところ。戦争中には有正が「ミタカ国民文庫」を開いた。大正3期末建築の折衷様式の洋館で、南側に整備された三鷹の森の竹林や芝生、池のある庭も美しい。館内は重厚な作りや暖炉や階段などがそのまま保存されている。山本有三に関する展示やイベントなどを見ることもできる。

開館 午前9時30分～午後4時30分(休館日=月曜日) ⇒同記念館☎42 6233

⑱ みたか井心(せいしん)亭

純和風の文化施設で、茶道・華道・歌合などに利用できる。茶道具などの貸出しもある。庭は小ざいながら本格的な日本庭園で、ここにある百日紅(さるすべり)は近くにあった太宰治の家から移植されたもので、垣根越しに外から見ることもできる。
⇒井心亭☎46 3922

⑳ みたかシティバス

従来のバスでは不可能だった狭い道でも運行できるコミュニティバス。現在走っているのは次の5ルート。
北野ルート(三鷹駅・北野地区)
三鷹ルート(三鷹駅・三鷹台駅)
西部ルート(武蔵境駅・調布飛行場)
三鷹の森ジブリ美術館循環ルート(三鷹駅・同美術館)
明星学園ルート(三鷹駅・同学園前)
赤いポキカラーも鮮やかな「赤とんぼバス」に ルートにはスタジオジブリデザインのバスも加わって、街に彩りを添えている。
運賃 大人200円、小人・小学生以下)100円。 ルートには、美術館見学にも便利な往復割引券(大人300円、小人150円)あり。

</